

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 10 月 20 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05677・19K20879

研究課題名(和文)日本における保育政策及び保育制度の実証分析

研究課題名(英文)Empirical analysis of childcare policies and systems in Japan

研究代表者

深井 太洋(FUKAI, Taiyo)

東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・特任研究員

研究者番号：50828803

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、保育所の供給側と需要側の両方に焦点をあてた実証分析を行った。具体的には、(1)認可保育所の拡充が女性の就業に与えた政策効果を評価し、保育所の増加により0～2歳の子どもを持つ女性の就業が増えたことを示した。(2)また、認可保育所運営にかかる補助金額が、保育所の定員(規模)によって非連続に変わるような現在の制度を利用して、補助金額に関する保育所定員数の弾力性を推定した。推定の結果、認可保育所の定員は補助金に対して弾力的であり、現在の補助金設定を変えることでコストを増やすことなく定員を増やすことができる可能性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育所の整備と女性の就業に関しては多くの研究が蓄積されてきた。しかしながら、出産後のどの時期に保育所を利用できることが、女性の就業に重要な役割を果たすのかという視点では研究がされてこなかった。0～2歳の低年齢児を持つ女性の就業率が上がったことを示した結果は、出産前後の保育政策を考える上で重要な結果であると考えられる。

また、認可保育所の供給については、待機児童問題を解決するために新しく保育所を設置するだけでなく、供給側のインセンティブとなる運営費の補助金制度を変更させることで、コストを増やすことなく定員を増やすことができる可能性を示した本研究成果は社会的意義の大きいものであると考える。

研究成果の概要(英文)：In this study, we conducted an empirical analysis that focused on both the supply and demand side of childcare. Specifically, we evaluated the policy effects of the expansion of accredited childcare centers on women's employment and showed that the increase in childcare centers led to an improvement in the employment rate of women with children between 0 and 2 years old. We also estimated the elasticity of the number of childcare center capacity with respect to the amount of subsidy, using the current system in which the amount of subsidy for the operation of accredited childcare centers varies discontinuously with the capacity (size) of the child-care centers. Estimates indicate that accredited childcare capacity is elastic to subsidies and that changing the current subsidy setting could increase capacity without increasing costs.

研究分野：労働経済学

キーワード：保育政策 政策評価 保育単価 女性の就業 集積分析

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

当該研究者のこれまでの研究を含め、保育所の整備と女性の就業に関しては多くの研究が蓄積されてきた。しかしながら、出産後のどの時期に保育所を利用できることが、女性の就業に重要な役割を果たすのかという視点では研究がされてこなかった。先進諸国では、育児休業制度が普及しており、育児休業をとり終えた後に職場に復帰するためには、市場サービスあるいは祖父母などによる育児が必要である。そこで、育児休業取得後と考えられる女性にとって、保育所の利用が就業にどのような影響を与えるのかを分析するという着想に至った。

また、認可保育所の供給については、待機児童問題を解決するためにはどのように供給を増やすことができるのかという視点を持つときに、現在の市場構造を明らかにする必要があると考えた。さらに、新しく保育所を設置することに国内の議論が集中する一方で、既存の施設を利用してさらに受け入れ人数を拡大することが必要だと考え、供給側のインセンティブとなる運営費の補助金制度に着目した。そこで、補助金額が保育所の定員に依存して非連続に変化するという制度を発見し、それによって生じる保育所の特定の定員への集積とその大きさを利用することで構造パラメータを明らかにすることができるという着想に至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本における認可保育所市場の構造と女性の就業に対する影響に関する

知見を得ることである。具体的には、本研究の目的は以下の3点に分けることができる。

政策変更などの準実験的状況を利用し、保育所の利用が女性の就業に与える効果を政策評価の手法を用いて推定する。

認可保育所への補助金額が、保育所の定員によって非連続に変化するような制度を利用し、保育所定員数の補助金に対する弾力性を推定する。

及び において得られた結果を利用し、補助金額や補助金の決定ルールを変更したときの費用と、女性の就業の変化による税収の増減で評価した便益を比較する。

3. 研究の方法

本研究ではまず、個人の間で保育所の利用しやすさが外生的に異なるような状況を用いて、政策評価の手法によって保育所の利用が女性の就業、就業形態や育児ストレスに与える因果効果を推定する。具体的には、認可保育所拡充の地域差を利用して、保育所の利用しやすさが外生的に異なるようなグループを比較できる状況を利用する。すなわち政策によって0～1歳の定員が大きく増えた地域と、あまり増えなかった地域において、保育所の利用と女性の就業率などを比較する。

次に、保育所運営に関する補助金額の制度変更を利用することで、各保育所における定員決定の補助金に対する弾力性を明らかにする。子ども一人にかかると想定される費用(保育単価)は、保育所の規模、子どもの年齢や地域によって定められ、そこから計算された総費用が各保育所の運営費として補助される。経済学の理論を応用すると、補助金額が非連続的に減少するような補助金スケジュールの下では、補助金額が減少するような点は最適な定員としては選ばれず、補助金が減る直前の点に保育所が集積することが予測される。その集積の大きさと政策変更による集積の変化から、定員決定に対する補助金額の弾力性に関する構造パラメータを推定する。

最後に推定されたパラメータによる政策シミュレーションを行う。具体的には、補助金額を非連続に変化させないような設定にした場合や、規模に応じて補助金額を変えないような設定にした場合の保育所定員の変化を分析する。得られた結果を用いて、補助金額を変化させることで保育所定員を増やすときのコストと、定員が増加し女性の就業が増えることによる税収の増分の双方を比較した費用便益分析を行う。

4 . 研究成果

分析の結果、認可保育所の保育所の増加により 0~2 歳の子どもを持つ女性の就業が増えたことを示した。また、認可保育所運営にかかる補助金に関しては、認可保育所の定員は補助金に対して弾力的であり、現在の補助金設定を変えることでコストを増やすことなく定員を増やすことができる可能性を示した。上記の結果の一部は日本労働研究雑誌に掲載されているほか、CREPE Discussion Paper として公表されている。また東京労働経済学研究会、東京大学や横浜国立大学において研究報告を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 深井太洋	4. 巻 707
2. 論文標題 保育所整備は女性の就業率や 出生率を上げたのか 保育所整備の政策評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 4-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Taiyo Fukai	4. 巻 No. 98
2. 論文標題 How elastic is capacity choice in welfare facilities? Evidence from notches in Japan's childcare subsidy scheme	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CREPE DISCUSSION PAPER	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Taiyo Fukai
2. 発表標題 How elastic is capacity choice of welfare facilities? Evidence from notches in child care subsidy scheme
3. 学会等名 CREPE Conference on Program Evaluation
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------